

関係各位

兵庫県病虫害防除所長

令和7年度病虫害発生予察防除情報第1号を発表します。

3月下旬以降の高温傾向により、小麦の生育が進み、出穂期や開花期が早まる可能性があります。また、周期的な降雨が見込まれる気象予報が発表されていることから、赤かび病の発生が懸念されます。現地での防除指導にご配慮願います。

令和7年度病虫害発生予察防除情報第1号 コムギ赤かび病の防除対策について

- 1 対象作物 小麦
- 2 病虫害名 赤かび病
- 3 発生地域 県南部（丹波地域を含む）
- 4 麦類生育状況、気象予報

- (1) 麦類気象感応調査(加西市、11月11日播種)によると、3月22日時点で「シロガネコムギ」の主稈葉数は平年並（当年値8.9、平年値8.8）であり、生育は平年並である。
- (2) 3月下旬の平均気温は12.0℃(平年値：9.1℃、福崎アメダス)と平年と比べてかなり高く、降水量は42.0mm(平年値：41.3mm、同)で平年並であった。向こう1ヶ月の近畿地方の気象予報(4月3日発表)は、降水量は平年並または少ない確率がそれぞれ40%であるが、天候は数日の周期で変わるとなっている。一定の降雨が見込まれ、かつ気温は平年より高い確率が50%であることから、発病が助長される可能性がある。

5 本病の被害と発生生態

- (1) 本病は、開花期～乳熟期頃に発生し、穂の一部または全部を褐変枯死させる（写真）。激しい発生となった被害粒は白っぽい屑ムギとなり、収量や品質が低下する。さらに、病原菌が産生するかび毒（デオキシニバレノール(DON)とニバレノール(NIV)）による汚染が起こる恐れがある。
- (2) 本病が、最も感染しやすい時期は、開花期(約50%が開花)から開花盛期(約80%が開花)であるため、開花始期から10日間の降雨日数が多く、日最低気温が高いと、発生が多くなる（農研機構「麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理マニュアル改訂版」より）。
- (3) 赤かび病菌は、土壌中や植物残渣上で越冬した子のう殻から子のう胞子が飛散して、幼穂などに感染するとされている。本県の5月下旬における赤かび病の発生量は、令和5年産ではやや多く、令和6年産では過去10年の同時期の値と比較して最も多かった。このことから、一次伝染源となる越冬した病原菌の量が多いと推測される。

6 防除上の留意点

- (1) 薬剤による小麦の防除適期は、開花始期～開花盛期である。適期防除を行った場合でも、発病が認められた場合は、追加防除を検討する。
- (2) 薬剤の治療効果は見込めないため、発病前の予防散布が重要である。また、開花期に曇

雨天が続く場合には複数回の薬剤散布が必要である。

- (3) 本病の発生がみられる圃場の小麦については、かび毒（DON、NIV）による汚染を避けるため、健全な圃場の麦と仕分けして収穫する（稲・麦・大豆作等指導指針 P.97）。
- (4) 防除薬剤については、農作物病害虫・雑草防除指導指針等を参考に選定し、農薬使用基準を守る。薬剤使用時は最新の登録内容を確認する。
- (5) 出穂期、開花期は、播種時期や圃場条件、今後の気象等によって異なるため、圃場ごとの生育状況を確認したうえで、適期防除に努める。



写真 コムギ赤かび病（左：穂先の症状、中：穎の合わせ目に紅色の孢子、右：穂の褐変）

*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp>

*農作物病害虫・雑草防除指導指針は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

*兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>

*麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理マニュアル改訂版（農研機構）は以下の URL に掲載

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/mugi_kabidoku_v2_man.pdf

*稲・麦・大豆作等指導指針は以下の URL に掲載

https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222

「兵庫県病害虫防除所」X(旧Twitter)にて情報発信中。
フォローをお願いします。
Xアカウント (https://twitter.com/hyogo_boujoshou)

